

ふれあいの濃いまちづくりをめぐって

越後山自治会 会長 中村幸夫

我が越後山自治会地域は、古くは牛房、向山地区とともに区制に基づく白子第3区自治会として組織されていましたが、昭和38年に分離独立し白三越後山自治会を発足させました。

発足当初の戸数は僅か9軒でしたがその後6年経って18戸になりました。18年後の昭和56年度には100戸に達し、その後は宅地化が急速に進み自治会員総数はは二つのマンションを含めて250戸に達しました。しかしながら、昭和59年の12月に越後山地区の大半が市街化調整区域に編入されたため、それ以降の30年近くは戸数的に変動がなく今日に至っています。

その後、再度市街化区域に編入したいとの地元の機運が

高まり平成17年に市街化区域に編入され現在土地区画整理事業が進めれています。

したがって、当自治会の会員数は、再び大幅な増加が見込まれることから自治会の今後の運営に当たり役員一同決意を新たにしているところであります。

地域的には、南大和バス停より越後山バス停に至る越後山通り(南面)から白子川までのほぼ全域に所在する世帯を会員とし、南側の大半は大泉1丁目に接していますが越後山橋の対岸は練馬区土支田町に変わります。

自治会活動を開始するに当たり我が自治会は、真つ先に独自の自治会会則を制定し、5年後には地元有志の協力を得て集会所が建設され、その後異動がありました

ものの、独自の集会所は今日まで維持され、彼此40年にわたって有効活用されてきました。

会則については、状況の変化を踏まえて適時改定を行ってききましたが、会の目的に「本会は市内関係機関と連携して地域社会の発展に係る諸事業の運営に協力し、会自らも明るく住みよい町づくりを目的とする」と謳い、イコールパートナーの関係にある行政との基本的な関係と他機関との協力の必要性を明確にした上で住みよき街づくりを謳っています。

以上が当自治会の概要であります。以下に具体的事業(活動)について説明します。防災関係の取り組みについて

当自治会では越後山防災会議を組織し、同規約に基づき積極的な防災活動を展開しています。防災訓練について原則として年一回の実施を目標とし、今年の実施は隣の緑自治会と土地区画整

理組合との共催により3月に実施する予定です。研修旅行に実施について

「他間にもれず当自治会員の9割以上の会員は、市外、県外からの転入者であります。従ってまずは会員の皆さんに自らの地域を良く知ってもらうこと、和光市をそして埼玉県をよく知り、好きになつてもらふ事を目的に2・3年前から県内を中心とする研修旅行を年中行事の一つと位置づけ毎年秋に実施しています。

市民体育祭への参加について

当自治会が育成会と一緒に体育祭に始めて参加したのは昭和62年であります。それから25年間連続して参加し、その間自治会対抗リレーでは4回優勝させていただきました。

自治会の参加状況としてはこれまで110名を切ったことは一度もなく、今後それなりに期待しています。それ以外では、年次総会後の会員懇親会があげられます。

総会は集会所で開催しますが、引き続き開催する来賓を交えた中身の濃い懇親会が盛大なもので、多くの会員が楽しみにしています。その他としては、当自治会内に組織された老人会、越後山クラブ並びに育成会とタイアップした数多くの行事が実施されていることです。老人会、育成会ともに自治会と関りの深い組織であることから自治会内で実施する事業、行事について自治会と一体となつて取り組んでいます。

防犯パトロール、クリーンパトロール(防犯を兼ねた清掃活動)芋煮会、餅つき大会等

は越後山クラブのメンバーが中心となつて行いますが自治会自体も協力にサポートすることにしています。

以上が当自治会の概要ですが、越後山地区自体は元来八雲神社、熊野神社の氏子でありますものこに至つて状況が変わってきていますので、この他の神事に参加する

には難しい面があり、自ずと祭り行事とは縁が薄くなつてしまいました。しかしながら、3年前より区画整理組合と共催で夏祭りを大々的に開催してきていることから、区画整理によって公園が整備された暁にはこの公園で新たに盆踊りなど大きな祭り行事を開催し、将来的にはこれを越後山の一大行事に発展・定着させては如何かといった意見も一部に出ていますので、いずれは会員の皆さんとも前向きな話し合いをしたいと考えています。

自治会は、その地域を代表する唯一の住民自治組織と理解しています。

それだけに我が地域の安全・安心・人の和等々を考える中で自治会の果たすべき役割と会員の自治会に対する期待冷静に見極め、引き続き「ふれあいの濃いまちづくり」をめざして自治会の運営に係りたいと考えています。会員の皆様のご理解と協力お願いいたします。